

令和6年度 出水高校シラバス（2年生用） 目次

		ページ
	教育課程表	2
国語	論理国語	3
	古典探究	5
地理歴史 ・公民	地理探究	7
	日本史探究	10
	世界史探究	12
	公共	14
数学	数学文系（Ⅱ，B，C）	16
	数学理系（Ⅱ，B，C）	19
理科	物理基礎	22
	化学基礎	26
	生物基礎	34
	物理	38
	化学	42
	生物	46
保健体育	体育	48
	保健	50
芸術	音楽Ⅱ	52
	美術Ⅱ	54
	書道Ⅱ	56
英語	英語コミュニケーションⅡ	58
	論理・表現Ⅱ	60

高校名 (出水高校) 大学科 (普通科) 小学科 (普通科)

		必修	標準単位	令和5年度入学				計		備考			
				1年	2年		3年		文系		理系		
				共通	文系	理系	文系	理系					
各学科に共通する各教科・科目	国語	現代の国語	◎	2	2					2	2		
		言語文化	◎	2	3					3	3		
		論理国語		4		3	2	3	2	6	4		
		古典探究		4		3	2	3	3	6	5		
	地理歴史	地理総合	◎	2	2					2	2	(共通) ・2年次において選択した科目を、3年次に継続履修する。	
		地理探究		3		②	②	④	③	0,6	0,5		
		歴史総合	◎	2	2					2	2		
		日本史探究		3		②	②	④	③	0,6	0,5		
		世界史探究		3		②	②	④	③	0,6	0,5		
	公民	公共	◎	2		2	2			2	2		
		政治・経済		2				3		3	0		
	数学	数学Ⅰ	◎	3	3					3	3	(共通) ・1年次において、数学Ⅰを履修後、数学Ⅱを履修する。	
		数学Ⅱ		4	1	3	3	②		4,6	4		
		数学Ⅲ		3					5	0	5		
		数学A		2	1			1	1	2	2		
		数学B		2		1	2	1		2	2		
		数学C		2		1	1	1	1	2	2		
	理科	科学と人間生活	◎	2	2					2	2	(理系) ・「物理」、「化学」、「生物」は、それぞれに対応する基礎を付した科目の履修後に履修可能。 ・2年次に選択した科目を、3年次に継続履修する。	
		物理基礎		2			②			0	0,2		
		物理		4			②		④	0	0,6		
		化学基礎	◎	2		2	2	2		4	2		
		化学		4			2		4	0	6		
		生物基礎		2		2	②	2		4	0,2		
	保健	体育	◎	7-8	3	3	3	2	2	8	8		
		保健	◎	2	1	1	1			2	2		
	芸術	音楽Ⅰ	○	2	②					0,2	0,2	(文系) ・2年次において、各科目のⅡを履修できるのは、1年次において各科目のⅠを履修していた生徒に限る。 ・3年次において、各科目のⅢを履修できるのは、2年次において各科目のⅡを履修していた生徒に限る。	
		音楽Ⅱ		2		②				0,2	0		
		音楽Ⅲ		2				②		0,2	0		
		美術Ⅰ	○	2	②					0,2	0,2		
		美術Ⅱ		2		②				0,2	0		
美術Ⅲ			2				②		0,2	0			
書道Ⅰ		○	2	②					0,2	0,2			
書道Ⅱ			2		②				0,2	0			
外国語	英語コミュニケーションⅠ	◎	3	3					3	3			
	英語コミュニケーションⅡ		4		4	3			4	3			
	英語コミュニケーションⅢ		4				5	4	5	4			
	論理・表現Ⅰ		2	2					2	2			
	論理・表現Ⅱ		2		2	2			2	2			
	論理・表現Ⅲ		2				2	2	2	2			
家庭	家庭基礎	◎	2	2					2	2			
情報	情報Ⅰ	◎	2	2					2	2			
科目単位数合計					31	31	31	31	31	93	93		
総探想				◎	3-6	1	1	1	1	1	3	3	
合計						32	32	32	32	32	96	96	
特活						1	1	1	1	1	3	3	
週当たり総時数						33	33	33	33	33	99	99	

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
国語	論理国語	第2学年	共通	文3 / 理2

教科書	精選論理国語（数研出版株式会社）
補助教材	頻出漢字マスター3000(尚文出版)・文学的文章読本（予定）

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的・批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	・広中平祐「学問の発見」 人はなぜ学ばなければならないのかという問いに対する筆者の考えを、根拠とともに読み取る。	・漢字・語彙の習得。段落ごとの読解。 ・文章中の例示の内容を踏まえ、自分の経験をあてはめて具体的に考える。
1	5 ～ 6	・森博嗣「『具体』から『抽象』へ」 言葉の性質について筆者の考えを読み取る。	・漢字・語彙の習得。段落ごとの読解。 ・筆者の主張を踏まえ、事物を抽象的に捉えることの利点に分かる具体例を日常生活の中から考える。
2	7	・長田弘「国境を越える言葉」 言葉の性質について筆者の考えを読み取る。	・漢字・語彙の習得。段落ごとの読解。 ・対談「ニュースとコミュニケーション」を合わせて読み、理解を深める。
2	9 ～ 10	・吉見俊哉「〈近代〉の入口と出口の間」 筆者が考える「問題の本質」の内容を論拠とともに読み取る。	・漢字・語彙の習得。段落ごとの読解。 ・「知識循環型社会」の実現のために必要なプロセスと実現に向けての課題について考える。
2	10 ～ 12	・関陽子「野生の『クジラ』と人間の『鯨』」 自然の「普遍的価値」「多元的価値」と、筆者の考える〈環境倫理〉〈環境道徳〉の内容を読み取る。	・漢字・語彙の習得。段落ごとの読解。 ・筆者が危惧する現代社会の「食」について具体的な例に即して考える。 ・思考や情報の視覚化の方法について知り、実際に使って説明する。
2	12	・坂井克之「科学の現場」中屋敷均「化学と生命」 科学における「権威主義」について理解する。	・漢字・語彙の習得。 ・科学について書かれた二つの文章の内容と表現の共通点と相違点を読み取る。
3	1 ～ 3	・藤田省三「『安楽』への全体主義」 人びとの精神状態を「安楽への隷属」と表現する筆者の意図を読み取る。	・漢字・語彙の習得。段落ごとの読解。 ・筆者の考えを踏まえ、現代社会についての自分なりの問題を発見し考えをまとめ小論文にまとめる。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査の結果等をもとに評価します。	定期考査のみならず，レポートを課して評価したり，グループでの話し合いや発表の場面で評価したりします。	レポート等における記述，授業中の発言，生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

学習の中心は授業です。目的意識をもって授業に取り組み，指導者の説明に耳を傾け，自分自身でよく思考・判断・表現するよう心がけてください。また，語彙力・思考力・表現力を伸ばすのは読書です。積極的に本を読みましょう。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
国語	古典探究	第2学年	共通	文3 / 理2

教科書	高等学校 精選古典探究 (株式会社第一学習社)
補助教材	学ぶぞ古文と漢文 (尚文出版)・古語単語帳 (予定)

1. 評価規準 (何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方・感じ方・考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

2. 学習内容 (何を学ぶか), 学習方法 (どのように学ぶか)

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・説話 (一)「小式部内侍が大江山の歌の事」 著名な和歌にまつわる話を読み、説話として語り伝えられた背景事情について理解を深める。 ・故事・寓話「推敲」「呉越同舟」 現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典文法・古文単語の整理と習得。 ・和歌の修辞法の復習。 ・説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、展開や内容を捉え、登場人物の人物像に迫る。 ・漢文句法・漢字語彙の習得。 ・故事成語の現代における意味を調べ、漢文のどこに由来するか指摘する。
1	5 ～ 6	<ul style="list-style-type: none"> ・随筆 (一) 徒然草「世に語り伝ふること」「あだし野の露消ゆるときなく」 争乱と政変の時代を生きた作者の世余の諸事情に向けた批評の目を通して、ものの見方や考え方を深める。 ・古代の史話「鼓腹撃壤」「鶏鳴狗盗」 史伝を読んで登場人物の言動を押さえ、古代中国の理想的政治のあり方について理解を深める。戦国時代を背景とした国の状況を押さえ、作中に書かれた孟嘗君の考えや人物像を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典文法・古文単語の整理と習得。 ・段落同士の関連を考えながら、全体の主旨をまとめ、主題を明らかにする。 ・漢文句法・漢字語彙の習得。 ・二つの歌がどのように文章の主題と関係するのか考える。 ・「臨川先生文集」を参考に、孟嘗君を自分なりに評価し話し合う。
2	7 ～ 9	<ul style="list-style-type: none"> ・随筆 (一) 方丈記「ゆく川の流れ」「安元の大火」 鎌倉初期という時代の転換期に作者が抱いた、人の世に対する思いを通して、物の見方や考え方を深める。 ・名家の文章「雑説」 本文の展開を的確に捉えるとともに、比喩にこめられた作者のものの考え方に 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典文法・古文単語の整理と習得。 ・対句、比喩などの表現技法に注意して作者の主張を自分の言葉でまとめる。 ・作品の背景にある仏教的無常観について調べる。 ・漢文句法・漢字語彙の習得。 ・文中に出てくる事物が何をたとえているかを明らかにして筆者の主張をまとめ

		ついて理解を深める。	る。
2	10 ～ 11	<ul style="list-style-type: none"> ・物語（二）源氏物語「光る君誕生」「若紫」 歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端に触れる。 ・項羽と劉邦 史記「鴻門之会」 登場人物の描写を読み解くことを通して、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深める。 ・日本の詩「不出門」「送夏目漱石之伊予」 日本の各時代に読まれた漢詩を鑑賞し、作者が漢詩に託した自然や人事に対する思いを通して考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典文法・古文単語の整理と習得。 ・『源氏物語』の文学史的な位置づけ、作品の概要などを調べる。 登場人物を整理し、その人物造形・心理描写などに注意しながら内容を捉える。 ・漢文句法・漢字語彙の習得。 ・登場人物ごとに行動と背後にある心情・もくろみをまとめ、一人一人が戦乱の時代をどのように生きようとしたかを考察する。 ・漢詩のきまりの復習 ・構成の工夫を確認し、漢詩に吐露される作者の心情をまとめる。
3	12 ～ 2	<ul style="list-style-type: none"> ・日記（一）紫式部日記「日本紀の御局」更級日記「門出」「源氏の五十余巻」 源氏物語の作者が時の帝の後宮に仕えていたときの日記を読み、その内面に抱いていた思いに触れる。 ・諸家の思想 孟子「何必曰利」老子「小国寡民」莊子「曳尾於塗中」韓非子「侵官之害」 『論語』と並ぶ儒家の古典である『孟子』、儒家と対立する道家の古典である『老子』『莊子』を読み、古代中国思想について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典文法・古文単語の整理と習得。 ・日記文学という文章の種類をふまえ、作者の意図を捉えて内容を解釈し、構成や表現を評価する。 ・漢文句法・漢字語彙の習得。 ・二つの思想の考え方を対比させながら、それぞれが目指したものを明らかにし、自らの生き方や社会のあり方を考える。
3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・平家物語「忠度の都落ち」「能登殿の最期」 軍記物語を読んで、登場人物の行動と、それを支える思想や歴史的背景を理解し、考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典文法・古文単語の整理と習得。 ・登場人物の発言に注目し、そこに現れた心情を説明する。 ・臨場感のある描写を支える、軍記物語に特有の描写を味わう。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査の結果等をもとに評価します。	定期考査と併せて、レポート提出・グループでの話し合い・発表の場面で評価します。	レポート等における記述・授業中の発言・生徒による自己評価等で評価します。

4. 補足

学習の中心は授業です。授業に集中し、指導者の説明に耳を傾け、自分でよく思考・判断・表現するよう心がけてください。また、語彙力・文法力を伸ばすのは予習です。当該学年において基礎・基本の完成を目指しましょう。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
地理歴史	地理探究	第2学年	共通	2単位

教科書	新詳地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)
補助教材	[1年次から継続使用] 新詳地理資料 COMPLETE2023(帝国書院) [3年次まで継続使用] 新地理要点ノート, 新地理の研究(啓隆社) ウィニングコンパス地理の整理と演習(とうほう)

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1 学期	4 5 6 7 月	第1章 自然環境 1節 地形 1 地形の成因と地球表面の起伏 2 地球規模の大地形 3 河川流域と海岸にみられる小地形 4 そのほかの特徴的な小地形 2節 気候 1 気候の成り立ち 2 気候と生態系 3 世界の気候区分 4 さまざまな気候帯 5 気候変動と異常気象 3節 日本の自然環境 1 日本の地形 2 日本の気候 3 開発に伴う災害と防災・減災の取組 4節 地球環境問題 1 地球環境問題とは 2 さまざまな地球環境問題 3 地球環境問題の解決に向けた取組	●ニュースで学ぶ地理 ① 日本や世界で起こる地理に関連した様々なニュースを取り上げ、現代社会の状況や変化を理解し、背景・要因や影響を考察する。 ⇒〔地理的感覚の養成〕 ② 考察の場面では、対話的活動を行い、互いの考えを理解し合う。 ⇒〔思考力・判断力の向上〕 ③ 対話的活動で考察したことを全体に向け発表する。 ⇒〔表現力の養成〕 ●教科書の読み込み【予習】 ① 単に読むではなく、何回も読み込むことで、地理的事象の要因や影響まで深く理解する。 ② 教科書の写真や地図、統計資料等の示す意味を考察する。 ③ 本文で表現の仕方を学ぶ。

2 学 期	9	第2章 資源と産業 1節 農林水産業 1 農業の発達と分布 2 農業の地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 日本の農業の現状と課題 5 世界と日本の林業 6 世界と日本の水産業	<ul style="list-style-type: none"> ●『要点ノート』を中心に授業を展開 <ul style="list-style-type: none"> ① 重要語句を丁寧に記入する。 ② 重要事項に線を引く。 ③ 板書事項や口頭で説明したことをメモする。 ④ 作業問題を考え解答する。 ●資料集の積極的活用 <ul style="list-style-type: none"> ① 写真や地図を視覚的に捉える。 ② 統計資料を覚える。 ③ 近年の動向・変化を深く理解する。 ●副教材の活用（授業時＋家庭学習） <ul style="list-style-type: none"> ①『新地理の研究』 記述式問題に取り組むことで授業内容の理解をより深める。 〔国公立大個別・私立大一般対応〕 ②『ウィニングコンパス』 ポイント整理で基礎知識の復習と問題演習で実践力を身に付ける。 〔共通テスト対策〕
	10 11 12 月	2節 食料問題 1 世界の食料問題 2 日本の食料問題 3節 エネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用 4節 資源・エネルギー問題 1 資源・エネルギーをめぐる課題 2 日本の資源・エネルギー問題	
3 学 期	1 2 3 月	5節 工業 1 工業の発達と種類 2 工業の立地 3 世界の工業地域 4 現代世界の工業の現状と課題 5 工業の知識産業化 6 日本の工業 6節 第3次産業 1 経済発展と第3次産業 2 商業の現状と変化 3 商業以外のさまざまな第3次産業	<ul style="list-style-type: none"> ●タブレットの積極的活用 <ul style="list-style-type: none"> ① GISなどのデジタル地図や地理に関連するデジタル情報の取扱に関する技能を習得する。 ② ネットから正確な情報の収集を行い、その情報を考察しまとめ、パワーポイントを使用し表現する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査及び単元テストの結果、白地図ワークに対する取組状況をもとに評価します。	定期考査の思考・判断を必要とする問題の解答状況やレポートの評価、グループでの対話的活動、発表状況で評価します。	授業に対する取組、課題への取組、対話的活動に対する取組、タブレットの活用などを、生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

<p>【授業において】</p> <p>① 授業の中で、まず教科書の記述内容についての十分な理解に取り組み、それぞれの分野ごとに概要を理解することが基本です。【授業内で理解】</p> <p>② 地図帳も教科書である。地理学習の基本である地名と位置の理解を深めてほしい。授業では、必ず自分の地図帳を開いて、一度出てきた地名には必ず赤ペン等でマークすること、必要な情報を記入すること。</p> <p>③ 地理資料は、教科書を補完する目的で授業において使用します。写真や図・統計資料(グラフ)などを見て理解を深めること。</p> <p>④ 授業プリント、考査問題をしっかりとファイリングすること。</p>
--

【家庭学習】

- ① 授業があったその日のうちに、授業の内容や地理用語についての復習を行うこと。
短時間(30分程度)でよいので、日々続けることが大切です。
- ② ニュースの視聴と新聞を読む習慣をつけ、国際社会の動きに関心を持つようにする。
同時に、地理的知識や見方・考え方を身につける。(大学入試等の小論文対策にもなる)
～副教材の活用～
- ③ 『新地理の研究』は、授業の進度に合わせた問題集です。演習を行うことで、知識の定着と理解の深化を図ることができます。また定期・課題考査の範囲としても利用するので、サクシード地理とセットで学習すると更に効果が上がります。
- ④ 『ウィニングコンパス地理の整理と演習』は、1年次に学習した「地理総合」を含めたものです。分野ごとに〔ポイントの整理〕では基礎的知識の確認と習得ができます。授業で学んだ範囲の復習に使用します。〔演習問題〕では、センター試験や共通テストの過去の問題の中から良問が選ばれています。学習した範囲を家庭学習の中でチャレンジし、共通テストに向けて、選択式の問題に慣れておくことです。特に間違った問題の復習をしっかりとしてください。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
地理歴史	日本史探究	第2学年	共通	2単位

教科書	詳説日本史探究(山川出版社)
補助教材	[3年次まで継続使用] 新日本史研究ノート応用編(啓隆社) 最新日本史図表(第一学習社)

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日本史に関わる諸事象について、地理的条件や東アジアをはじめとする世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸史料から日本史に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身に付けている。	日本史に関わる事象の意味や意義、自然と人間との関わり、我が国で熟成された文化の成り立ち、アジア及び世界との関係、近代文明の発展について多面的・多角的に考察し、表現している。また、それらを効果的に説明したり、議論したりしている。	日本史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。また、見通しをもって学習に取り組み、課題を克服しようとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1 学期	4 5 6 7 月	第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 ①古代社会と海外との交流 ②木簡から古代国家を探る	●第1章 人間が日本列島で生活を営み始めた時代から縄文文化・弥生文化への変化、日本列島の歴史的環境と文化の形成とを関連付け、先史時代の特色や古代の国家形成、社会の関わりについて考察します。
		第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	●第2章 古墳が造営された経緯、ヤマト政権の成立と政策について、古代の史料を読み解き、なぜ律令国家を形成しなければならなかったのか、という次章につながる主題を立て、その解決に向けて協働して考察します。
2 学期	9 10 11 12 月	第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	●第3章 第2章で考察した内容をもとに、律令国家の経過や問題点について学習します。また、貴族政治の発展にどのようにつながっていくのかを主体的に考え、学習に臨んでください。
		第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	
		第5章 院政と武士の躍進	●第4章

		1 院政の始まり 2 院政と平氏政権 第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	貴族政治が成立していく中で、我が国独自の文化が形成される過程を学びます。また、なぜ武士が誕生したのかを考察していきます。 ●第5～7章 朝廷と武士の関係性を史料から読み解き、武士が台頭できた背景を考察します。その際、武家政権の政治機構や法令などから、当時の人々の生活について調べ学習に取り組み、話し合う活動も取り入れます。
3 学 期	1 2 3 月	第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査及び単元テストの結果等をもとに評価します。	定期考査の思考・判断を必要とする問題の解答状況やレポートの評価、グループでの対話的活動、発表状況で評価します。	授業に対する取組、課題への取組、対話的活動に対する取組、授業中の発言、生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

<p>【授業において】</p> <p>① 授業の中で、まず教科書の記述内容についての十分な理解に取り組み、それぞれの分野ごとに概要を理解することが基本です。【授業内で理解】</p> <p>② 歴史は、なぜ、どこで、いつ、何が（誰が）、どうした、ということを中心に理解していく必要があります。適当に覚えているようではいつまでも身につかないので、日頃から自分だけの年表を作ったり、単語帳を作ったりして、少しでも理解できるようにしましょう。</p> <p>③ 歴史問題では過去の史料や写真、統計資料などが必ず出てきます。特に古代資料は漢文や古文で書いてあるので、国語の授業内容もしっかりおさえておきましょう。</p> <p>④ 授業プリント、考査問題をしっかりとファイリングし、いつでも復習できるように。</p> <p>【家庭学習】</p> <p>① 授業があったその日のうちに、授業の内容や歴史的用語についての復習を行きましょう。短時間(30分程度)でもよいので、日々続けることが大切です。</p> <p>② 日本史だけではなく、海外の歴史にも興味を持ちましょう。特に日本と東アジア諸国とのつながりは、いつの時代でも必ず出てきます。どのような関係だったのかを知ることで、今日の日本と世界各国のつながりが理解できることもあると思います。</p> <p>～副教材の活用～</p> <p>① 『日本史研究ノート』は、授業の進度に合わせた問題集です。演習を行うことで、知識の定着と理解の深化を図ることができます。また定期・課題考査の範囲としても利用するので、セットで学習すると更に効果が上がります。</p> <p>② 『日本史図表』は、貴重な史料や図などが載っています。特に文化財などは実物を見る機会が少ない分、必ず役に立つので、授業時以外でも読み込むことを勧めます。</p>
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
地理歴史	世界史探究	第2学年	共通	2単位

教科書	「世界史探究」(東京書籍)
補助教材	「アカデミア世界史」(浜島書店) 「要点マスター世界史探究整理と演習」(東京書籍)

1. 評価規準 (何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界史上重要な出来事については、その概要と意義、および「いつ、どこで」起こったことなのかを明確に理解し、記憶している。そして、それらの情報を必要に応じて速やかに取り出し、活用することができる。	史料やデータを正確に読み取り、歴史上の様々な事象について、その実態や意義について考えることができる。また、異なる国や地域で起こった事象について、互いの関係性を地域横断的に捉えて考察し、世界全体の構造として認識、理解することが出来る。その上で、これらの知見について適切に記述、あるいは口頭で説明できる。	世界史上の諸問題について、その性格や意義について積極的に考えようという意識を持つ。また、学習したことをきちんと記録して、こまめに復習すると共に、より発展的な考察を行うために積極的に活用する。

2. 学習内容 (何を学ぶか)、学習方法 (どのように学ぶか)

学期	月	学習内容	学習方法
1	4 5	第1章 古代文明の出現 1. 先史の世界 2. 古代地中海世界の成立 3. 古代南アジア世界 4. 東南アジアの古代国家 5. 東アジアの古代文明	太古、人類は「国家」と呼べるものを形成することなく、集団で生活していました。そこからどのようにして国家が形成されてきたのか、そのメカニズムを追います。また、国家のシステムは、地域によって異なりました。この章では、その相違点と、その相違を生んだ各地域毎の特性についても考察します。
1	6 7	第2章 西アジアと地中海周辺 1. 古代オリエントの統一帝国 2. 古代ギリシア文明とヘレニズム 3. 古代ローマ帝国 4. イスラーム世界の成立 5. 中世初期の東西ヨーロッパ	文明の発達は、やがて、各地域での統一帝国の成立へと到ります。共通の特徴がある一方で、それぞれに異なる特徴があり、それは、地域毎の事情や帝国成立の経緯の違いによるものです。本章では、こうした点に留意しながら、古代統一帝国の成立と崩壊の経緯を学習し、支配体制の共通点と相違点について学びます。
2	8 9	第3章 南アジア 1. 南アジアの国家形成 2. インド世界の形成と発展	南アジアは、世界の標準とも言える欧米や、我々になじみの深い東アジアとも、全く異なる独自の世界観や思考のシステムを形作ってきました。現代人にはわかりにくいとされる、この地域の独自の知的システムについて、その淵源を辿りつつ、文明の形成の過程を学びます。

学期	月	学習内容	学習方法
2	9	第4章 東南アジア 1. 海の道の成立と発展 2. 東南アジア古代国家の再編	近年注目されている「海のシルクロード」の概要について、写真資料や文字史料を用いて学習します。
2	10	第5章 東アジアと中央ユーラシア 1. 東アジア古代帝国の誕生 2. 魏晋南北朝時代 3. 隋唐帝国と東アジア諸地域 4. 中央アジアのトルコ化とイスラーム化	日本をはじめとして多くのアジア諸国が国家建設の手本とした隋唐両帝国の支配体制について、その特徴、および成立の過程について、資料を用いて考察します。
2	11	第6章 アフリカ・オセアニア・古アメリカ 1. アフリカの古代文明 2. オセアニアの古代文明 3. アメリカ大陸の古代文明	世界史の中で軽視されてきたこれらの地域ですが、最近では研究も進み、看過できない知見が数多く紹介されています。最新の研究成果を踏まえながら、これらの地域における国家の興亡を辿ります。
2	12	第7章 イスラーム世界の拡大と繁栄 1. イスラーム世界の発展 2. イスラーム文明	イスラームという宗教の特質を明らかにしつつ、この宗教と政治や経済がどのように結びついたのか、当時の史料を読み解きつつ、明らかにします。
3	1	第8章 中世ヨーロッパ 1. 中世ヨーロッパ社会の展開 2. 中世ヨーロッパ社会の再編 3. 中世ヨーロッパの文化 4. ルネッサンス	現代人の感覚では全くといってよいほど理解不能なのが、この時代のヨーロッパです。その政治や社会の仕組みを、史料を丁寧に読み解きつつ、一つ一つ明らかにしていきます。
3	2	第9章 中華世界の変容とモンゴル帝国 1. 五代十国時代 2. 宋帝国 3. モンゴル帝国	隋唐帝国の崩壊した後、顕著となった農耕民族と遊牧民族のせめぎ合いは、モンゴル帝国の統一によって收拾されました。全く異質な両勢力を一つの権力が束ねることが出来たその意味を、現代の民族問題と関連づけながら学習します。
3	3	第10章 インド洋海域世界の発展と東南アジア 1. インドのイスラーム化 2. 東南アジア世界の発展	南アジアと東南アジアにおけるイスラーム化の過程について、地理の知見を援用しながら、この地でイスラームが果たしてきた役割について学習します。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，実力考査の結果により評価する。	定期考査，実力考査の結果に加えて，授業中の発表や演習の内容により評価する。	授業ノート，および復習ノートの内容，授業中の発表や活動状況により評価する。

4. 補足

<p>授業のルールとして、以下のことを厳守してください。</p> <p>①教材を忘れないこと。もしも忘れた場合は、授業の前に教科担当者にその旨伝えて、授業に支障のないよう、必要な措置を講じること、</p> <p>②授業は始業のチャイムと同時に始めます。始業時間までに教材を準備して、着席しておくこと。</p>
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
公民	公共	第2学年	共通	2単位

教科書	公共（実教出版）
補助教材	公共マイノート新課程版（実教出版），新公共研究ノート（啓隆社）

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
一学期	4 ～ 5	A 公共の扉	「公共」の導入として、大項目B以降で活用する概念や理論、公共的な空間における基本的原理などを、古今東西の先人の考え方や思考実験を通して学習します。
一学期～三学期	6 ～ 1	B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち ① 法や規範の意義及び役割 ② 多様な契約及び消費者の権利と責任 ③ 司法参加の意義 ④ 政治参加と公正な世論の形成，地方自治 ⑤ 国家主権，領土（領海，領空を含む） ⑥ 我が国の安全保障と防衛 ⑦ 国際貢献を含む国際社会における我が国の役割 ⑧ 職業選択 ⑨ 雇用と労働問題 ⑩ 財政及び租税の役割，少子高齢社会における社会保障の充実・安定化	法，政治及び経済に関わる①～⑬の事項について諸資料をもとに学習し，現実社会の諸課題に関わる具体的な主題（問い）を立て，その解決に向けて事実をもとに協働して考察し，論拠を持って発表したりする学習活動を行います。 その際，大項目Aで身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用して，考察することが大切です。
一学期～三学期	6 ～ 1	⑪ 市場経済の機能と限界 ⑫ 金融の働き ⑬ 経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む）	

三学期	2 ～ 3	C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	「公共」のまとめとして、よりよい社会の形成という観点から、現代社会の諸課題について、自ら課題を見だし、その解決に向けて考察し、自分の考えを説明、論述する探究学習を行います。
-----	-------------	-----------------------	--

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，及び単元ごとに実施する単元テストの結果等をもとに評価します。	定期考査や単元テストのみならず，論述やレポートを課して評価したり，グループでの話合いや発表の場面で評価したりします。	レポートやリフレクションシート等における記述，授業中の発言，生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

たくさんのニュースを目にする中で，現代社会が大きな転換点にたっていることを感じている人も多いと思います。今年度新設された「公共」では，現代社会のしくみを学ぶと同時に，「なぜ」「どうして」という素朴な疑問を大切にしながら，「どのような」社会を目指すべきかについてまで考える，思考・判断や対話・表現活動を重視した内容となっています。

そこで，授業はペアワークを中心に行います。現代社会の諸課題について学び，互いの意見を否定せず自由に意見を出し合い，様々な角度から「よりよい社会とは何か」を考えていきましょう。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
数学	数学Ⅱ	2	文系	3

教科書	新編 数学Ⅱ (数研出版)
補助教材	3 T R I A L 数学Ⅱ 完成ノート スタディサプリ大学受験・高校講座

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	論理的に考察する力、簡潔・明瞭・的確に表現する力、数学的・統一的・発展的に考察する力を身に付けている。	数学のよさを認識し活用しようとする態度や、数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、考察を深め、評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
一学期	4	第3章 図形と方程式	直線や円の方程式や軌跡・領域について学び、それらを用いて性質や位置関係について考察し学習する。
	5	第4章 三角関数	三角関数の値の変化やグラフの特徴、基本的な性質、加法定理・2倍角の公式・三角関数の合成について学び、式とグラフの関係について多面的に考察し学習する。
	6	第5章 指数関数と対数関数	指数法則や指数関数・対数関数について学び、相互に関連付けて多面的に考察し学習する。
	7	第6章 微分法と積分法	導関数、極大・極小、不定積分及び定積分について学び、関数の局所的な変化に着目し、様々な事象を数学的に捉え考察し学習する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査、及び単元ごとに実施する単元テスト等の結果をもとに評価する。	定期考査や単元テストのみならず、グループで話し合いや発表の場面で評価する。	授業中の発言、生徒による自己評価等をもとに評価する。

4. 補足

復習については苦手な分野を把握し、公式・定理・解法を理解していくことが大切です。丸暗記するのではなく、ときには時間をかけて計算過程を吟味し、グラフや図を描くなどしてイメージを創りながらじっくり考え、粘り強い態度をもって学習に取り組んでください。
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
数学	数学B	2	文系	1

教科書	新編 数学B (数研出版)
補助教材	3 T R I A L 数学B 完成ノート スタディサプリ大学受験・高校講座

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈し表現・処理したりする技能を身に付けている。	規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、各性質に着目し、推測・判断・考察する力、様々な事象を数学化し、問題を解決し過程や結果を考察したりする力が身に付いている。	数学のよさを認識し活用しようとする態度、数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、過程を振り返って考察を深めたり、評価改善したりしようとする態度が身に付いている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
二学期	9 ～ 10	第1章 数列	数学的活動を通して、有用性を認識し一般項や和を求める方法や、漸化式や数学的帰納法を学び、そこから規則性を表現・考察し日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考え方を問題解決に活用するなど多面的に考察し学習する。
	11	第2章 統計的な推測	数学的活動を通して、標本調査の考え方や確率変数・確率分布、二項分布・正規分布、区間推定・仮説検定について学び、各特徴をデータを用いて考察し学習する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査、及び単元ごとに実施する単元テスト等の結果をもとに評価する。	定期考査や単元テストのみならず、グループで話し合いや発表の場面で評価する。	授業中の発言、生徒による自己評価等をもとに評価する。

4. 補足

復習については苦手な分野を把握し、公式・定理・解法を理解していくことが大切です。丸暗記するのではなく、ときには時間をかけて計算過程を吟味し、グラフや図を描くなどしてイメージを創りながらじっくり考え、粘り強い態度をもって学習に取り組んでください。
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
数学	数学C	2	文系	1

教科書	新編 数学C (数研出版)
補助教材	3TRIAL 数学C 完成ノート スタディサプリ大学受験・高校講座

1. 評価規準 (何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈し表現・処理したりする技能を身に付けている。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則や図形的な意味を考察する力、構造に着目し、統合的・発展的に考察する力、事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学を活用しようとする態度、数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、過程を振り返って考察し、評価・改善しようとする態度が身に付いている。

2. 学習内容 (何を学ぶか)、学習方法 (どのように学ぶか)

学期	月	学習内容	学習方法
二 ～ 三 学期	12 ～ 1	第1章 平面上のベクトル 第2章 空間のベクトル	数学Iの内容を基礎とし、大きさや向きをもった量の図形的な意味や構造の基本原則・法則を学び、それらの性質を発展的に学習する。
三 学期	2 ～ 3	第3章 複素数平面 第4章 式と曲線	放物線、楕円、双曲線などの2次曲線の基本的な性質について学び、曲線の媒介変数表示や極座標、極方程式、ド・モアブルの定理など相互に関連付けて捉え考察し学習する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査、及び単元ごとに実施する単元テスト等の結果をもとに評価する。	定期考査や単元テストのみならず、グループで話し合いや発表の場面で評価する。	授業中の発言、生徒による自己評価等をもとに評価する。

4. 補足

復習については苦手な分野を把握し、公式・定理・解法を理解していくことが大切です。丸暗記するのではなく、ときには時間をかけて計算過程を吟味し、グラフや図を描くなどしてイメージを創りながらじっくり考え、粘り強い態度をもって学習に取り組んでください。
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
数学	数学Ⅱ	2	理系	3

教科書	新編 数学Ⅱ (数研出版)
補助教材	3 T R I A L 数学Ⅱ 完成ノート スタディサプリ大学受験・高校講座

1. 評価規準 (何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	論理的に考察する力、簡潔・明瞭・的確に表現する力、数学的・統一的・発展的に考察する力を身に付けている。	数学のよさを認識し活用しようとする態度や、数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、考察を深め、評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。

2. 学習内容 (何を学ぶか)、学習方法 (どのように学ぶか)

学期	月	学習内容	学習方法
一学期	4	第3章 図形と方程式	直線や円の方程式や軌跡・領域について学び、それらを用いて性質や位置関係について考察し学習する。
	5	第4章 三角関数	三角関数の値の変化やグラフの特徴、基本的な性質、加法定理・2倍角の公式・三角関数の合成について学び、式とグラフの関係について多面的に考察し学習する。
	6	第5章 指数関数と対数関数	指数法則や指数関数・対数関数について学び、相互に関連付けて多面的に考察し学習する。
	7	第6章 微分法と積分法	導関数、極大・極小、不定積分及び定積分について学び、関数の局所的な変化に着目し、様々な事象を数学的に捉え考察し学習する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査、及び単元ごとに実施する単元テスト等の結果をもとに評価する。	定期考査や単元テストのみならず、グループで話し合いや発表の場面で評価する。	授業中の発言、生徒による自己評価等をもとに評価する。

4. 補足

復習については苦手な分野を把握し、公式・定理・解法を理解していくことが大切です。丸暗記するのではなく、ときには時間をかけて計算過程を吟味し、グラフや図を描くなどしてイメージを創りながらじっくり考え、粘り強い態度をもって学習に取り組んでください。
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
数学	数学 B	2	理系	2

教科書	新編 数学 B (数研出版)
補助教材	3 T R I A L 数学 II 完成ノート スタディサプリ大学受験・高校講座

1. 評価規準 (何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈し表現・処理したりする技能を身に付けている。	規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、各性質に着目し、推測・判断・考察する力、様々な事象を数学化し、問題を解決し過程や結果を考察したりする力が身に付いている。	数学のよさを認識し活用しようとする態度、数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、過程を振り返って考察を深めたり、評価改善したりしようとする態度が身に付いている。

2. 学習内容 (何を学ぶか), 学習方法 (どのように学ぶか)

学期	月	学習内容	学習方法
二学期	9	第1章 数列	数学的活動を通して、有用性を認識し一般項や和を求める方法や、漸化式や数学的帰納法を学び、そこから規則性を表現・考察し日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考え方を問題解決に活用するなど多面的に考察し学習する。
	10	第2章 統計的な推測	数学的活動を通して、標本調査の考え方や確率変数・確率分布、二項分布・正規分布、区間推定・仮説検定について学び、各特徴をデータを用いて考察し学習する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査、及び単元ごとに実施する単元テスト等の結果をもとに評価する。	定期考査や単元テストのみならず、グループで話し合いや発表の場面で評価する。	授業中の発言、生徒による自己評価等をもとに評価する。

4. 補足

復習については苦手な分野を把握し、公式・定理・解法を理解していくことが大切です。丸暗記するのではなく、ときには時間をかけて計算過程を吟味し、グラフや図を描くなどしてイメージを創りながらじっくり考え、粘り強い態度をもって学習に取り組んでください。
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
数学	数学C	2	理系	1

教科書	新編 数学C (数研出版)
補助教材	3TRIAL 数学C 完成ノート スタディサプリ大学受験・高校講座

1. 評価規準 (何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈し表現・処理したりする技能を身に付けている。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則や図形的な意味を考察する力、構造に着目し、統合的・発展的に考察する力、事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学を活用しようとする態度、数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、過程を振り返って考察し、評価・改善しようとする態度が身に付いている。

2. 学習内容 (何を学ぶか)、学習方法 (どのように学ぶか)

学期	月	学習内容	学習方法
二学期	11 ～ 12	第1章 平面上のベクトル 第2章 空間のベクトル	数学Iの内容を基礎とし、大きさや向きをもった量の図形的な意味や構造の基本原理・法則を学び、それらの性質を発展的に学習する。
三学期	1 ～ 3	第3章 複素数平面 第4章 式と曲線	放物線、楕円、双曲線などの2次曲線の基本的な性質について学び、曲線の媒介変数表示や極座標、極方程式、ド・モアブルの定理など相互に関連付けて捉え考察し学習する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査、及び単元ごとに実施する単元テスト等の結果をもとに評価する。	定期考査や単元テストのみならず、グループで話し合いや発表の場面で評価する。	授業中の発言、生徒による自己評価等をもとに評価する。

4. 補足

復習については苦手な分野を把握し、公式・定理・解法を理解していくことが大切です。丸暗記するのではなく、ときには時間をかけて計算過程を吟味し、グラフや図を描くなどしてイメージを創りながらじっくり考え、粘り強い態度をもって学習に取り組んでください。
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
理科	物理基礎	2 学年	理系選択	2

教科書	高等学校 新物理基礎 (第一学習社)
補助教材	新課程版 プログレス物理基礎(第一学習社)

1. 評価規準 (何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習内容 (何を学ぶか), 学習方法 (どのように学ぶか)

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	第 I 章 運動とエネルギー 第 1 節 物体の運動 ① 速さ ② 等速直線運動 ③ 変位と速度 ④ 速度の合成・相対速度 ⑤ 加速度	<ul style="list-style-type: none"> 物体の変位や速度などの表し方について、直線運動を中心に理解する。 直線上を運動している物体の合成速度や相対速度を考えることができる。 物体の加速度を理解し、等加速度直線運動について式やグラフで考えることができる。 物体が空中を落下するときの運動を調べ、その特徴を理解する。 自由落下や鉛直投射について、式やグラフを用いて考えることができる。
	5	⑥ 等加速度直線運動(1) ⑦ 等加速度直線運動(2) 探究 1 加速度運動とグラフ ⑧ 重力加速度と自由落下 ⑨ 鉛直投射 ⑩ 水平投射 探究 2 自由落下の加速度	
	5	第 2 節 力と運動の法則 ① 力と質量 ② いろいろな力 ③ 力の合成・分解と成分 ④ 力のつりあい ⑤ 作用・反作用の法則 ⑥ 慣性の法則	<ul style="list-style-type: none"> 物体にさまざまな力がはたらくことを理解する。 物体にはたらく力の合成・分解をベクトルを用いて扱い、つりあいについて理解を深める。 作用・反作用の法則を扱い、つりあう 2 力との違いを理解する。 運動の 3 法則について、観察や実験を通して

学期	月	学習内容	学習方法
		⑦力と質量と加速度の関係(1) ⑧力と質量と加速度の関係(2) ⑨運動の法則 ⑩摩擦力 ⑪流体から受ける力	理解する。 ・運動方程式の立て方について学習し、さまざまな運動状態における運動方程式の立て方を理解する。 ・摩擦力の特徴を理解し、それを含めた運動について理解する。 ・水圧と浮力の関係について理解する。
	6	第3節 仕事と力学的エネルギー ①力がする仕事 ②仕事の原理と仕事率 ③運動エネルギー ④重力による位置エネルギー ⑤弾性力による位置エネルギー ⑥力学的エネルギー(1) ⑦力学的エネルギー(2)	・仕事, 仕事の原理, 仕事率を学習し, 物理における「仕事」について理解する。 ・運動エネルギーと仕事の関係について, 式を用いて理解する。 ・位置エネルギーについて, 仕事と関連づけて理解する。 ・力学的エネルギーの保存について実験などを通して学習し, 法則が成り立つ条件とともに理解する。
	7	第II章 熱 第1節 熱とエネルギー ①温度と熱運動 ②熱と熱平衡 ③熱量の保存 探究3 比熱の測定 ④物質の三態 ⑤熱と仕事 ⑥エネルギーの変換と保存	・熱運動, セルシウス温度, 絶対温度を学習し, 温度について理解する。 ・熱と熱量を学習したのち, 熱平衡, 比熱, 熱容量, 熱量の保存について理解する。 ・熱量の保存を利用し, 物質の比熱を測定する。 ・物質の三態について熱運動と関連づけて理解し, 熱膨張の現象を知る。 ・熱と仕事が同等であることを学習し, 内部エネルギー, 熱力学の第1法則を理解する。 ・熱機関と熱効率を学習し, 可逆変化と不可逆変化について理解する。 ・さまざまなエネルギーの移り変わりを学習したのち, エネルギーの保存について理解する。
	7	第III章 波動 第1節 波の性質 ①波と振動 ②波の表し方 ③横波と縦波	・波の伝わり方について理解し, 振動数と周期の関係を学習する。 ・正弦波と波, 振幅, 波長, 周期, 振動数など, 波の基本的な要素について理解する。

学期	月	学習内容	学習方法
		④波の重ねあわせ ⑤定常波 ⑥波の反射	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の時間経過によって移動した波について、波形を作図できるようにする。 ・横波，縦波の特徴や，縦波の横波表示について理解する。 ・波動実験器を用いた観察などを通して，重ねあわせの原理と波の独立性について理解する。 ・重なりあった波の作図などを通して，定常波が生じるしくみを理解する。 ・パルス波の反射，正弦波の反射について，反射の仕方，反射波と合成波の作図の仕方を理解する。
		第2節 音波 ①音の速さと3要素 ②波としての音の性質 ③弦の固有振動 ④気柱の固有振動 探究4 弦の固有振動 探究5 気柱の共鳴	<ul style="list-style-type: none"> ・音波の伝わり方を学習し，空気中における音速と温度の関係を理解する。 ・音の3要素(音の高さ，大きさ，音色)について，音波の波形の特徴を理解する。 ・身近な現象と関連させ，音の反射について理解する。 ・うなりが生じるしくみを理解し，うなりの回数を計算することができる。 ・共振，共鳴の現象について理解する。 ・弦に生じる振動の特徴を学習し，波の波長，振動数の関係を式を用いて理解する。 ・気柱に生じる振動の特徴を学習し，波の波長，振動数の関係を式を用いて理解する。
2	9	第IV章 電気 第1節 電荷と電流 ①電荷 ②電流と電気抵抗 ③物質と抵抗率 ④抵抗の接続 ⑤電力量と電力 探究6 ジュール熱の測定	<ul style="list-style-type: none"> ・静電気の現象を学習し，帯電のしくみについて理解する。 ・電流や電圧とは何かを学習し，オームの法則について理解する。 ・ニクロム線などの物質の抵抗と形状の関係について測定し，抵抗率を導入する。 ・抵抗の直列接続，並列接続における特徴を踏まえ，合成抵抗を理解する。 ・ジュールの法則を扱い，電力量と電力について

学期	月	学習内容	学習方法
			<p>て理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気回路の実験において、電流計と電圧計の接続の仕方を理解する。
		第2節 電流と磁場 ①磁場 ②モーターと発電機 ③交流の発生と利用 ④電磁波	<ul style="list-style-type: none"> 電流がつくる磁場について理解する。 モーターが回転するしくみ、発電機で電気が生じるしくみを理解する。 直流と交流の違いを知り、交流の性質を踏まえ、変圧器や送電について理解する。 電磁波の発生、電磁波の分類について理解する。
		第3節 エネルギーとその利用 ①太陽エネルギーの利用 ②原子核と放射線 ③原子力とその利用 探究7 発電電力量の推移	<ul style="list-style-type: none"> 太陽エネルギーと化石燃料の特徴について学習し、エネルギーの流れや問題点などを理解する。 放射線の種類とその性質を学習し、原子力発電についてのメリットとデメリットを知る。
		終章 物理学が拓く世界	
			<ul style="list-style-type: none"> 物理学が、日常生活や社会を支えている科学技術と結びついていることを理解する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査及び単元ごとに実施する単元テストの結果等をもとに評価します。	課題研究や実験レポートを課して評価したり、グループでの話合いや発表の場面で評価したりします。	実験レポートやリフレクションシート等における記述、授業中の発言、生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

1日1～2問（時間30分程度）の課題を出します。習慣化できるようにしましょう。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
理科	化学基礎	2 学年	文系選択	2

教科書	「化学基礎」(東京書籍)
補助教材	セミナー化学基礎 (第一学習社)

1. 評価規準 (何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習内容 (何を学ぶか), 学習方法 (どのように学ぶか)

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	1 編 化学と人間生活 1 章 化学とは何か 2 章 物質の成分と構成元素 1 節 物質の成分 2 節 物質の構成元素 3 節 物質の三態	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの物や製品が物質でできていることに気づく。 ・2 種類の物質を区別する方法を考え、実際に分離する。 ・それぞれの物質には性質があり、私達はそれを利用して生活していることを理解する。また純物質と混合物の性質を理解する。 ・純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。また、いくつかの元素には同素体があることを知る。 ・物質には三態があり、それぞれの状態のとき、物質を構成する粒子がどのように運動しているか推察する。
	5	2 編 物質の構成 1 章 原子の構成と元素の周期表 1 節 原子の構造 2 節 電子配置 3 節 元素の周期表	<ul style="list-style-type: none"> ・物質を構成する粒子が原子であることに気づく。 ・原子の大きさや構造について知る。 ・モデルを用いて原子核の周囲に電子殻があることに気づく。 ・電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 ・元素の周期律について確認する。元素の性質の規則

学期	月	学習内容	学習方法
			性について考察する。
	6	2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合	<ul style="list-style-type: none"> ・電子配置からイオンの生成を理解する。 ・イオンの価数だけでなく、単原子イオン、多原子イオンの分類を知る。 ・同じ電子配置をもつイオンどうしのイオン半径を比較して考える。
	7	2編 物質の構成 2節 分子と共有結合 3節 金属と金属結合 4節 化学結合と物質の分類	<ul style="list-style-type: none"> ・分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 ・金属は、金属元素の原子が規則正しく配列してできた結晶であることを知る。 ・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 ・結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。

学期	月	学習内容	学習方法
	9	3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 1節 原子量・分子量・式量 2節 物質質量	<ul style="list-style-type: none"> 原子 1 個の質量は極めて小さいため、原子の相対質量とは基準として決められたある原子の質量との比較で求めた相対質量であることを知る。 原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。 粒子の数に基づく量の表し方が物質質量であることを知る。 物質質量とその単位の mol の関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。
	10	3節 溶液の濃度 4節 化学反応の表し方 5節 化学反応の表す量的関係	<ul style="list-style-type: none"> モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 化学反応式の係数が表している量的関係を考える。
2	11	2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 2節 水素イオン濃度と pH	<ul style="list-style-type: none"> 酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを考察する。 水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 水溶液の水素イオン濃度は広い範囲で変化するため、pH でも表せることを理解する。
	12	3節 中和反応と塩	<ul style="list-style-type: none"> 酸と塩基が中和するときの変化を化学反応式で理解する。 酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が、中性になるとは限らないことがわかる。 実験観察を通して、塩の水溶液の pH を測定する。その塩をつくるもとになった酸、塩基の強弱を比較して考察する。 中和の条件は、酸から生じる H^+ の物質質量と塩基から生じる OH^- の物質質量が等しくなることだとわかる。 実験観察を通して基本的な技能から食酢の濃度を求
	1	4節 中和滴定	

学期	月	学習内容	学習方法
		3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元	め、得られた結果を分析して中和反応の量的関係を理解する。 ・酸化と還元は常に同時に起こることを知る。 ・反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。
	2	2節 酸化剤と還元剤 3節 金属の酸化還元反応	・代表的な酸化剤、還元剤を知り、それらの水溶液中での反応式を理解する。 ・実験観察を通して金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを知る。 ・実験観察を通して、金属のイオン化傾向と電流の流れる向きを比較し関係性を考える。
	3	4節 酸化還元反応の応用	・身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を調べて発表する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査, 及び単元ごとに実施する単元テストの結果等をもとに評価します。	課題研究や実験レポートを課して評価したり, グループでの話合いや発表の場面で評価したりします。	実験レポートや課題の提出状況, 生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

週2時間の授業で進みます。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
理科	化学基礎	2 学年	理系選択	2

教科書	「化学基礎」(東京書籍)
補助教材	サイエンスビュー新化学資料 (実教出版) セミナー化学基礎+化学 (第一学習社)

1. 評価規準 (何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習内容 (何を学ぶか), 学習方法 (どのように学ぶか)

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	1 編 化学と人間生活 1 章 化学とは何か 2 章 物質の成分と構成元素 1 節 物質の成分 2 節 物質の構成元素 3 節 物質の三態	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの物や製品が物質でできていることに気づく。 ・2 種類の物質を区別する方法を考え、実際に分離する。 ・それぞれの物質には性質があり、私達はそれを利用して生活していることを理解する。また純物質と混合物の性質を理解する。 ・純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。また、いくつかの元素には同素体があることを知る。 ・物質には三態があり、それぞれの状態のとき、物質を構成する粒子がどのように運動しているか推察する。
	5	2 編 物質の構成 1 章 原子の構成と元素の周期表 1 節 原子の構造 2 節 電子配置 3 節 元素の周期表	<ul style="list-style-type: none"> ・物質を構成する粒子が原子であることに気づく。 ・原子の大きさや構造について知る。 ・モデルを用いて原子核の周囲に電子殻があることに気づく。 ・電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。

学期	月	学習内容	学習方法
		2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合	<ul style="list-style-type: none"> ・元素の周期律について確認する。元素の性質の規則性について考察する。 ・電子配置からイオンの生成を理解する。 ・イオンの価数だけでなく、単原子イオン、多原子イオンの分類を知る。 ・同じ電子配置をもつイオンどうしのイオン半径を比較して考える。
	6	2編 物質の構成 2節 分子と共有結合 3節 金属と金属結合 4節 化学結合と物質の分類	<ul style="list-style-type: none"> ・分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 ・金属は、金属元素の原子が規則正しく配列してできた結晶であることを知る。 ・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 ・結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。
	7	3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 1節 原子量・分子量・式量 2節 物質質量 3節 溶液の濃度 4節 化学反応の表し方	<ul style="list-style-type: none"> ・原子 1 個の質量は極めて小さいため、原子の相対質量とは基準として決められたある原子の質量との比較で求めた相対質量であることを知る。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。 ・粒子の数に基づく量の表し方が物質質量であることを知る。 ・物質質量とその単位 mol の関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。

学期	月	学習内容	学習方法
		5節 化学反応の表す量的関係	<ul style="list-style-type: none"> ・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 ・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。
2	9	2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 2節 水素イオン濃度とpH 3節 中和反応と塩 4節 中和滴定	<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを考察する。 ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・水溶液の水素イオン濃度は広い範囲で変化するため、pHでも表せることを理解する。 ・酸と塩基が中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が、中性になるとは限らないことがわかる。 ・実験観察を通して、塩の水溶液のpHを測定する。その塩をつくるもとなった酸、塩基の強弱を比較して考察する。 ・中和の条件は、酸から生じるH^+の物質量と塩基から生じるOH^-の物質量が等しくなることだとわかる。 ・実験観察を通して基本的な技能から食酢の濃度を求め、得られた結果を分析して中和反応の量的関係を理解する。
	10	3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元 2節 酸化剤と還元剤 3節 金属の酸化還元反応 4節 酸化還元反応の応用	<ul style="list-style-type: none"> ・酸化と還元は常に同時に起こることを知る。 ・反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。 ・代表的な酸化剤、還元剤を知り、それらの水溶液中での反応式を理解する。 ・実験観察を通して金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを知る。 ・実験観察を通して、金属のイオン化傾向と電流の流れる向きを比較し関係性を考える。 ・身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を調べて発表する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査, 及び単元ごとに実施する単元テストの結果等をもとに評価します。	課題研究や実験レポートを課して評価したり, グループでの話合いや発表の場面で評価したりします。	実験レポートや課題の提出状況, 生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

週 4 時間の授業で進みます。前半は「化学基礎」、後半は、「化学」の内容を授業します。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
理科	生物基礎	2	文系	2

教科書	生物基礎（東京書籍）
補助教材	セミナー生物基礎（第一学習社）

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物と生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や観察・実験に関する技能を身に付けている。	生物と生物現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	生物と生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	1 編 生物の特徴 1 章 生物の多様性と共通性 実験顕微鏡の使い方と細胞の観察 実験マイクロメーターによる測定 1 生物の多様性	<p>1 以下の①～③のサイクルを継続する。</p> <p>① 予習（10～15分） 教科書を、図表や写真等と照らし合わせながら読む。理解できない箇所にペン等で印をつけ、授業時に解決できるように準備する。</p> <p>② 授業（50分） 五感を研ぎ澄ませて取り組み、疑問点の解決に努める。板書事項以外でも重要な点はメモする（書き込みプリント冊子）。</p> <p>③ 復習（授業日＋週末） 問題集の問題を解き、理解度を確認する。不十分な点は、教科書や図録で再確認し、要点をまとめておく。</p> <p>2 観察・実験 ※安全面に留意して取り組む。 (1) 実施前に目的を理解しておく。 (2) 予想や仮説を立てて臨む。 (3) 正確な操作を心がける。 (4) 実験データなどの事実を正確に記録し、表や図、文章に変換する。結果をもとに考察する。 (5) 「なぜそのような操作をするのか?」、 「なぜそのような結果になるのか?」常に問いかけながら取り組む。</p> <p>3 調べる 疑問点は、自主的に調べて解決に努める。以下、同様に学習を進める。</p>
		5	
	6	2 章 生物とエネルギー 1 生体とATP 2 生体内の化学反応 3 呼吸と光合成	
	7	2 編 遺伝子とそのはたらき 1 章 遺伝情報とDNA 1 生物と遺伝子 実験DNAの抽出 2 DNAの構造 3 遺伝情報の複製と分配	
2	9	2 章 遺伝情報とタンパク質 1 タンパク質 2 DNAとタンパク質の合成	
	10	3 細胞分化と遺伝子 3 編 ヒトの体の調節 1 章 体内環境と情報伝達 1 体内環境	
	11	2 神経系による情報伝達	

		3 ホルモンによる情報伝達	
	12	4 血糖濃度の調節	
3	1	2章 免疫のはたらき 1 免疫のしくみ	
	2	2 免疫記憶	
	3	3 免疫の異常	

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，単元テストの結果，観察・実験の技能をもとに評価する。	定期考査と単元テストの結果，及び観察・実験レポートの内容，発表内容をもとに評価する。	観察・実験レポートの内容と授業中の態度，「学習計画&実行表」の内容，生徒による自己評価をもとに評価する。

4. 補足

<ol style="list-style-type: none"> 1 教科書に準じた「書き込みプリント冊子」を利用して学習を進める。 2 図表を文・文章に変換すること，ならびに，その逆も意識して学習する。 3 物理学や化学の基礎的な知識・概念とのつながりを意識して学習する。 4 計算技術・スピードの向上も意識しながら取り組む。 5 主体的に，周囲と協働して取り組む。 6 他者の考えを尊重しつつ，自分自身の考えをわかりやすく表現することに努める。
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
理科	生物基礎	2	理系選択	2

教科書	生物基礎（東京書籍）
補助教材	フォトサイエンス生物図録（数研出版）、セミナー生物基礎＋生物（第一学習社）

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物と生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や観察・実験に関する技能を身に付けている。	生物と生物現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	生物と生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	1 編 生物の特徴 実験①顕微鏡の使い方と細胞の観察 実験②マイクロメーターによる測定 1 章 生物の多様性と共通性 1 生物の多様性 2 生物の共通性 3 細胞の特徴 2 章 生物とエネルギー 1 生体とATP 2 生体内の化学反応 実験③酵素カタラーゼのはたらく条件 3 呼吸と光合成	1 以下の①～③のサイクルを継続する。 ④ 予習（10～15分） 教科書を、図表や写真等と照らし合わせながら読む。理解できない箇所にペン等で印をつけ、授業時に解決できるように準備する。 ⑤ 授業（50分） 五感を研ぎ澄ませて取り組み、疑問点の解決に努める。板書事項以外でも重要な点はメモする（書き込みプリント冊子）。 ⑥ 復習（授業日＋週末） 問題集の問題を解き、理解度を確認する。不十分な点は、教科書や図録で再確認し、要点をまとめておく。
	5	2 編 遺伝子とそのはたらき 1 章 遺伝情報とDNA 1 生物と遺伝子 実験④DNAの抽出 2 DNAの構造 3 遺伝情報の複製と分配 2 章 遺伝情報とタンパク質 1 タンパク質 2 DNAとタンパク質の合成 3 細胞分化と遺伝子	2 観察・実験 ※安全面に留意して取り組む。 (5) 実施前に目的を理解しておく。 (6) 予想や仮説を立てて臨む。 (7) 正確な操作を心がける。 (8) 実験データなどの事実を正確に記録し、表や図、文章に変換する。結果をもとに考察する。 (5) 「なぜそのような操作をするのか?」、「なぜそのような結果になるのか?」常に問いかけながら取り組む。
	6	3 編 ヒトの体の調節 1 章 体内環境と情報伝達	

		1 体内環境 2 神経系による情報伝達 3 ホルモンによる情報伝達 4 血糖濃度の調節	3 調べる 疑問点は、自主的に調べて解決に努める。 以下、同様に学習を進める。
	7	2章 免疫のはたらき 1 免疫のしくみ 2 免疫記憶 3 免疫の異常	
	8	実験⑤生物の観察と採集	
2	9	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移 1 植生とその環境 2 植生の遷移 3 遷移とバイオーム 2章 生態系と生物の多様性 1 生態系における生物の多様性 2 生態系における生物間の関係 3 生態系と攪乱 4 生態系の保全	

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，単元テストの結果，観察・実験の技能をもとに評価する。	定期考査と単元テストの結果，及び観察・実験レポートの内容，発表内容をもとに評価する。	観察・実験レポートの内容と授業中の態度，「学習計画&実行表」の内容，生徒による自己評価をもとに評価する。

4. 補足

<ol style="list-style-type: none"> 1 教科書に準じた「書き込みプリント冊子」を利用して学習を進める。 2 考査ごとに配布する「授業進度表」に基づき，「学習計画&実行表」を生徒自ら作成し，学習を進める。学習方法の①～③のサイクルを繰り返す。 3 図表を文・文章に変換すること，ならびに，その逆も意識して学習する。 4 物理学や化学の基礎的な知識・概念とのつながりを意識して学習する。 5 計算技術・スピードの向上も意識しながら取り組む。 6 主体的に，周囲と協働して取り組む。 7 他者の考えを尊重しつつ，自分自身の考えをわかりやすく表現することに努める。
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
理科	物理基礎	2 学年	理系選択	2

教科書	高等学校 新物理基礎 (第一学習社)
補助教材	新課程版 プログレス物理基礎(第一学習社)

1. 評価規準 (何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習内容 (何を学ぶか), 学習方法 (どのように学ぶか)

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	第I章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動 ①速さ ②等速直線運動 ③変位と速度 ④速度の合成・相対速度 ⑤加速度	<ul style="list-style-type: none"> 物体の変位や速度などの表し方について、直線運動を中心に理解する。 直線上を運動している物体の合成速度や相対速度を考えることができる。 物体の加速度を理解し、等加速度直線運動について式やグラフで考えることができる。 物体が空中を落下するときの運動を調べ、その特徴を理解する。 自由落下や鉛直投射について、式やグラフを用いて考えることができる。
	5	⑥等加速度直線運動(1) ⑦等加速度直線運動(2) 探究1 加速度運動とグラフ ⑧重力加速度と自由落下 ⑨鉛直投射 ⑩水平投射 探究2 自由落下の加速度	
	5	第2節 力と運動の法則 ①力と質量 ②いろいろな力 ③力の合成・分解と成分 ④力のつりあい ⑤作用・反作用の法則 ⑥慣性の法則	<ul style="list-style-type: none"> 物体にさまざまな力がはたらくことを理解する。 物体にはたらく力の合成・分解をベクトルを用いて扱い、つりあいについて理解を深める。 作用・反作用の法則を扱い、つりあう2力との違いを理解する。 運動の3法則について、観察や実験を通して

学期	月	学習内容	学習方法
		⑦力と質量と加速度の関係(1) ⑧力と質量と加速度の関係(2) ⑨運動の法則 ⑩摩擦力 ⑪流体から受ける力	理解する。 ・運動方程式の立て方について学習し、さまざまな運動状態における運動方程式の立て方を理解する。 ・摩擦力の特徴を理解し、それを含めた運動について理解する。 ・水圧と浮力の関係について理解する。
	6	第3節 仕事と力学的エネルギー ①力がする仕事 ②仕事の原理と仕事率 ③運動エネルギー ④重力による位置エネルギー ⑤弾性力による位置エネルギー ⑥力学的エネルギー(1) ⑦力学的エネルギー(2)	・仕事, 仕事の原理, 仕事率を学習し, 物理における「仕事」について理解する。 ・運動エネルギーと仕事の関係について, 式を用いて理解する。 ・位置エネルギーについて, 仕事と関連づけて理解する。 ・力学的エネルギーの保存について実験などを通して学習し, 法則が成り立つ条件とともに理解する。
	7	第II章 熱 第1節 熱とエネルギー ①温度と熱運動 ②熱と熱平衡 ③熱量の保存 探究3 比熱の測定 ④物質の三態 ⑤熱と仕事 ⑥エネルギーの変換と保存	・熱運動, セルシウス温度, 絶対温度を学習し, 温度について理解する。 ・熱と熱量を学習したのち, 熱平衡, 比熱, 熱容量, 熱量の保存について理解する。 ・熱量の保存を利用し, 物質の比熱を測定する。 ・物質の三態について熱運動と関連づけて理解し, 熱膨張の現象を知る。 ・熱と仕事が同等であることを学習し, 内部エネルギー, 熱力学の第1法則を理解する。 ・熱機関と熱効率を学習し, 可逆変化と不可逆変化について理解する。 ・さまざまなエネルギーの移り変わりを学習したのち, エネルギーの保存について理解する。
	7	第III章 波動 第1節 波の性質 ①波と振動 ②波の表し方 ③横波と縦波	・波の伝わり方について理解し, 振動数と周期の関係を学習する。 ・正弦波と波, 振幅, 波長, 周期, 振動数など, 波の基本的な要素について理解する。

学期	月	学習内容	学習方法
		④波の重ねあわせ ⑤定常波 ⑥波の反射	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の時間経過によって移動した波について、波形を作図できるようにする。 ・横波、縦波の特徴や、縦波の横波表示について理解する。 ・波動実験器を用いた観察などを通して、重ねあわせの原理と波の独立性について理解する。 ・重なりあった波の作図などを通して、定常波が生じるしくみを理解する。 ・パルス波の反射、正弦波の反射について、反射の仕方、反射波と合成波の作図の仕方を理解する。
		第2節 音波 ①音の速さと3要素 ②波としての音の性質 ③弦の固有振動 ④気柱の固有振動 探究4 弦の固有振動 探究5 気柱の共鳴	<ul style="list-style-type: none"> ・音波の伝わり方を学習し、空気中における音速と温度の関係を理解する。 ・音の3要素(音の高さ、大きさ、音色)について、音波の波形の特徴を理解する。 ・身近な現象と関連させ、音の反射について理解する。 ・うなりが生じるしくみを理解し、うなりの回数を計算することができる。 ・共振、共鳴の現象について理解する。 ・弦に生じる振動の特徴を学習し、波の波長、振動数の関係を式を用いて理解する。 ・気柱に生じる振動の特徴を学習し、波の波長、振動数の関係を式を用いて理解する。
2	9	第IV章 電気	
		第1節 電荷と電流 ①電荷 ②電流と電気抵抗 ③物質と抵抗率 ④抵抗の接続 ⑤電力量と電力 探究6 ジュール熱の測定	<ul style="list-style-type: none"> ・静電気の現象を学習し、帯電のしくみについて理解する。 ・電流や電圧とは何かを学習し、オームの法則について理解する。 ・ニクロム線などの物質の抵抗と形状の関係について測定し、抵抗率を導入する。 ・抵抗の直列接続、並列接続における特徴を踏まえ、合成抵抗を理解する。 ・ジュールの法則を扱い、電力量と電力について

学期	月	学習内容	学習方法
			<p>て理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気回路の実験において、電流計と電圧計の接続の仕方を理解する。
		第2節 電流と磁場 ①磁場 ②モーターと発電機 ③交流の発生と利用 ④電磁波	<ul style="list-style-type: none"> ・電流がつくる磁場について理解する。 ・モーターが回転するしくみ、発電機で電気が生じるしくみを理解する。 ・直流と交流の違いを知り、交流の性質を踏まえ、変圧器や送電について理解する。 ・電磁波の発生、電磁波の分類について理解する。
		第3節 エネルギーとその利用 ①太陽エネルギーの利用 ②原子核と放射線 ③原子力とその利用 探究7 発電電力量の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽エネルギーと化石燃料の特徴について学習し、エネルギーの流れや問題点などを理解する。 ・放射線の種類とその性質を学習し、原子力発電についてのメリットとデメリットを知る。
		終章 物理学が拓く世界	
			<ul style="list-style-type: none"> ・物理学が、日常生活や社会を支えている科学技術と結びついていることを理解する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査及び単元ごとに実施する単元テストの結果等をもとに評価します。	課題研究や実験レポートを課して評価したり、グループでの話合いや発表の場面で評価したりします。	実験レポートやリフレクションシート等における記述、授業中の発言、生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

1日1～2問（時間30分程度）の課題を出します。習慣化できるようにしましょう。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
理科	化学	2 学年	理系選択	2

教科書	「化学」(東京書籍)
補助教材	サイエンスビュー新化学資料 (実教出版) セミナー化学基礎+化学 (第一学習社)

1. 評価規準 (何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象についての理解を深め, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし, 見通しをもって観察, 実験などを行い, 科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習内容 (何を学ぶか), 学習方法 (どのように学ぶか)

学期	月	学習内容	学習方法
2	11	1 編 物質の状態 1 章 物質の状態 1 節 物質の三態 2 節 気体・液体間の状態変化 2 章 気体の性質 1 節 気体 2 節 気体の状態変化	<ul style="list-style-type: none"> ・固体, 液体, 気体の 3 つの状態を確認し, 粒子のふるまいを考える。 ・物質の融点, 沸点は, 化学結合や分子間力の種類と関係し, 粒子間に働く引力が大きいほど高くなることを理解する。 ・圧力の単位と大気圧について理解する。 ・蒸気圧と蒸気圧曲線について理解する。 ・ボイルの法則とシャルルの法則からボイル・シャルルの法則が導かれることを理解する。 ・アボガドロの法則を用いて, ボイル・シャルルの法則に物質量の考え方が導入できないか考える。 ・理想気体と実在気体の違いについて理解する。

学期	月	学習内容	学習方法
		3章 溶液の性質 1節 溶解 2節 希薄溶液の性質 3節 コロイド	<ul style="list-style-type: none"> ・イオン結晶と極性分子，無極性分子の溶解について溶媒の種類と関連付けて考える。 ・飽和溶液について溶解平衡を使って考える。 ・純溶媒と不揮発性の物質を溶かした希薄溶液の蒸気圧を比べて，その違いについて理解する。 ・電解質の希薄溶液について考え，非電解質との違いを理解し，質量モル濃度の使い方を確認する。 ・コロイド粒子について理解し，真の溶液とコロイド溶液の違いについて考える。
	12	4章 固体の構造 1節 結晶 2節 金属結晶の構造 3節 イオン結晶の構造 4節 分子結晶と共有結合の結晶	<ul style="list-style-type: none"> ・結晶は一般に粒子が規則正しく配列した構造をもつ固体で，規則的でない固体を非晶質ということを確認する。 ・面心立方格子，六方最密構造，体心立方格子についてその配列，配位数，充填率について理解する。 ・単位格子に含まれるイオンの数と，イオン結晶の配位数について，その構造とともに理解する。 ・分子結晶や共有結合の結晶について，金属結晶やイオン結晶との違いを考える。
	1	2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光 1節 反応とエンタルピー変化 2節 ヘスの法則 3節 光とエネルギー 2章 電池と電気分解 1節 電池 2節 電気分解	<ul style="list-style-type: none"> ・化学変化や状態変化には熱の出入りを伴うことを理解する。 ・実際に測定することが難しい反応の反応エンタルピーを計算で求めることができるようになる。 ・光が波であることを確認し，光子のもつエネルギーとその光の波長の関係を理解する。 ・電池の原理を確認し，ダニエル電池の仕組みについて理解する。 ・電気分解の基本的な用語を確認し，水溶液の

学期	月	学習内容	学習方法
			電気分解の酸化還元反応について理解する。
	2	3 編 化学反応の速さと平衡 1 章 化学反応の速さ 1 節 反応の速さ 2 節 反応速度を変える条件 3 節 反応のしくみ 2 章 化学平衡 1 節 可逆反応と化学平衡 2 節 平衡の移動	<ul style="list-style-type: none"> ・化学反応には瞬時に反応が進む速い反応から、長い時間をかけて進む遅い反応まで様々あることを理解する。 ・濃度による反応速度の違いを理解し、反応速度式の表し方を実験によって求めることができることを知る。 ・反応速度の表し方を理解する。 ・活性化エネルギーと化学反応の経路について、反応エンタルピーと結合エンタルピーの違いを理解する。 ・可逆反応、不可逆反応、正反応、逆反応について説明できるようになる。 ・ルシャトリエの原理を理解し、説明できるようになる。
	3	3 章 水溶液中の化学平衡 1 節 電離平衡 2 節 塩の水溶液の溶解	<ul style="list-style-type: none"> ・酸や塩基の電離定数について理解する。 ・水のイオン積の関係式から、pH を求めることができるようになる。 ・正塩の水溶液の性質について確認し、その理由を加水分解という言葉を使って説明できるようになる。

学期	月	学習内容	学習方法
			になる。 ・弱酸弱塩基の遊離について説明することができるようになる。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査，及び単元ごとに実施する単元テストの結果等をもとに評価します。	課題研究や実験レポートを課して評価したり，グループでの話合いや発表の場面で評価したりします。	実験レポートや課題の提出状況，授業中の発言，生徒による自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

週4時間の授業で進みます。前半は「化学基礎」，後半は，「化学」の内容を授業します。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
理科	生物	2	理系選択	2

教科書	生物基礎（東京書籍）
補助教材	フォトサイエンス生物図録（数研出版）、セミナー生物基礎＋生物（第一学習社）

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物と生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や観察・実験に関する技能を身に付けている。	生物と生物現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	生物と生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
2	10	1 編 生物の進化 1章 生命の起源と細胞の進化 1 共通性と多様性をつなぐ進化 2 生命の誕生 3 生物の多様性と地球環境の変化	1 以下の①～③のサイクルを継続する。 ⑦ 予習（10～15分） 教科書を、図表や写真等と照らし合わせながら読む。理解できない箇所にペン等で印をつけ、授業時に解決できるように準備する。 ⑧ 授業（50分） 五感を研ぎ澄ませて取り組み、疑問点の解決に努める。板書事項以外でも重要な点はメモする（書き込みプリント冊子）。 ⑨ 復習（授業日＋週末）
	11	2章 遺伝子の変化と進化のしくみ 1 遺伝的変異 2 有性生殖 3 進化の定義と自然選択による進化 4 遺伝子レベルでみる進化 5 種分化	問題集の問題を解き、理解度を確認する。不十分な点は、教科書や図録で再確認し、要点をまとめておく。
	12	3章 生物の系統と進化 1 生物の系統 2 生物の系統分類 3 霊長類の中のヒト 4 人類の出現と変遷	2 観察・実験 ※安全面に留意して取り組む。 (9) 実施前に目的を理解しておく。 (10) 予想や仮説を立てて臨む。 (11) 正確な操作を心がける。 (12) 実験データなどの事実を正確に記録し、表や図、文章に変換する。結果をもとに考察する。
3	1	2 編 生命現象と物質 1章 細胞と物質 1 細胞を構成する成分 2 生体膜のはたらき 3 細胞の構造 4 タンパク質の構造 5 酵素としてはたらくタンパク質 6 生命現象とタンパク質	(12) 実験データなどの事実を正確に記録し、表や図、文章に変換する。結果をもとに考察する。 (5) 「なぜそのような操作をするのか?」、「なぜそのような結果になるのか?」常に問いかけながら取り組む。

		3 調べる 疑問点は、自主的に調べて解決に努める。 以下、同様に学習を進める。
2	2章 代謝とエネルギー 1 代謝とエネルギー 2 呼吸 実験 コハク酸脱水素酵素のはたらき 3 発酵 実験 アルコール発酵 4 光合成 実験 薄層クロマトグラフィーによる 光合成色素の分離	
3	3編 遺伝情報の発現と発生 1章 遺伝情報とその発現 1 DNAの構造 2 DNAの複製 3 遺伝情報の流れ 4 RNAと転写	

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査, 単元テストの結果, 観察・実験の技能をもとに評価する。	定期考査と単元テストの結果, 及び観察・実験レポートの内容, 発表内容をもとに評価する。	観察・実験レポートの内容と授業中の態度, 「学習計画&実行表」の内容, 生徒による自己評価をもとに評価する。

4. 補足

<ol style="list-style-type: none"> 1 教科書に準じた「書き込みプリント冊子」を利用して学習を進める。 2 考査ごとに配布する「授業進度表」に基づき, 「学習計画&実行表」を生徒自ら作成し, 学習を進める。学習方法の①～③のサイクルを繰り返す。 3 図表を文・文章に変換すること, ならびに, その逆も意識して学習する。 4 物理学や化学の基礎的な知識・概念とのつながりを意識して学習する。 5 計算技術・スピードの向上も意識しながら取り組む。 6 主体的に, 周囲と協働して取り組む。 7 他者の考えを尊重しつつ, 自分自身の考えをわかりやすく表現することに努める。
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
保健体育	体育	2	普通	3

教科書	現代高等学校保健体育
補助教材	現代高等保健体育ノート ステップアップ高校スポーツ 2023

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能（運動）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の計画的，合理的実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに，目的に応じた技能を身につけている。	自己や仲間の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて，課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに，それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう，運動の合理的，計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか），学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1		1 体づくり運動 2 新体力テスト 3 領域選択 ネット型（バレーボール・バドミントン） ベースボール型（ソフトボール） 4 体育理論 2 単元 運動・スポーツの学び方 01 スポーツにおける技能と体力 02 スポーツにおける技術と戦術	<ul style="list-style-type: none"> ・「体育」の導入として，体ほぐしの運動や体づくりの運動，集団行動の基本的な考え方を実践から学習する。 ・自己の客観的な指標となる運動を測定する。 ・状況に応じたボール操作と状況に応じた守備などによって攻防することを学習する。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について学習する。
2		5 体づくり運動 6 領域選択 ゴール型（バスケットボール・サッカー） 7 陸上競技（長距離走） 8 体育理論 2 単元 運動・スポーツの学び方 03 技能の上達過程と練習 04 効果的な運動のメカニズム	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の行い方，体力の構成要素，実生活への取り入れ方を学習する。 ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすることを学習する。 ・自分で設定したペースの変化や仲間のペースに応じてストライドやピッチを切り替えて走ることを学習する。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について，課題を発見し，よりよい解決に向けて思考し判断することを学習する。
		9 領域選択	・フェアプレイを大切にしようとする

3		ネット型(バレーボール・バドミントン) ゴール型(サッカー・ハンドボール) ベースボール型(ソフトボール ほか) 10 体育理論 2 単元 運動・スポーツの学び方 05 体力トレーニング 06 運動やスポーツでの安全確保	こと、合意形成に貢献しようとする こと、互いに助け合い高め合おうと することを学習する。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕 方について、課題を発見し、よりよ い解決に向けて思考し判断するとと もに、他者に伝えることを学習する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりごとに学習カードやスキルテストを実施して評価する。	ペアやグループでの話し合いや学び合う活動で評価する。	学習カードや健康・安全を確保できるようにする態度を評価する。

4. 補足

--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
保健体育	保健	2	普通	1

教科書	現代保健体育
補助教材	現代高等保健体育ノート

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	課題を発見し、原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	生涯を通じる健康，健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか），学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1		3 生涯を通じる健康 ① ライフステージと健康 ② 思春期と健康 ③ 性意識と性行動の選択 ④ 妊娠・出産と健康 ⑤ 避妊法と人工妊娠中絶 ⑥ 結婚生活と健康 ⑦ 中高年期と健康	生涯を通じる健康について，理解を深め，自他や社会の課題を発見し，その解決を目指した活動について学習する。
2		⑧ 働くことと健康 ⑨ 労働災害と健康 ⑩ 健康的な職業生活 4 健康を支える環境づくり ① 大気汚染と健康 ② 水質汚濁，土壌汚染と健康 ③ 環境と健康にかかわる対策 ④ ごみの処理と上下水道の整備 ⑤ 食品の安全性	健康を支える環境づくりについて，理解を深め，自他や社会の課題を発見し，その解決を目指した活動について学習する。
3		⑥ 食品衛生にかかわる活動 ⑦ 保健サービスとその活用 ⑧ 医療サービスとその活用 ⑨ 医薬品の制度とその活用 ⑩ さまざまな保健活動や社会的対策 ⑪ 健康に関する環境づくりと社会参加	健康を支える環境づくりに関する情報から，課題を発見し，健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに，それらを表現することを学習する。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査をもとに評価する。	ペアやグループでの話し合いや学び合う活動で評価する。	授業中の発言，生徒による自己評価等をもとに評価する。

4. 補足

--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
芸術	音楽Ⅱ	第2学年	文系	2単位

教科書	MOUSA 2 (教育芸術社)
補助教材	MUSIC NOTE (九州高等学校音楽研究会)

1. 評価規準 (何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 ・ 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。</p>	<p>主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

2. 学習内容 (何を学ぶか), 学習方法 (どのように学ぶか)

学期	月	学習内容	学習方法
一学期	4 ～ 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーボード (ピアノ) 1 ・ 西洋音楽史 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーボード (ピアノ) の基本的な奏法やコードネームの考え方を学習し、楽曲を練習します。 ・ 古代ギリシャからルネサンスの時代の音楽について、その変遷を学習します。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞 (オペラ・ミュージカル) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽史上の推移を理解し特徴を踏まえてその魅力を味わいます。
二学期	9 ～ 11	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーボード (ピアノ) 2 ・ 西洋音楽史 2 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーボード (ピアノ) の奏法やコードネームを学習しながら楽曲を練習します。 ・ バロックの時代の音楽について、その変遷を学習します。
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞 (オペラ・ミュージカル) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽史上の推移を理解し特徴を踏まえてその魅力を味わいます。

三 学 期	1 ～ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボード（ピアノ）3 ・西洋音楽史3 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボード（ピアノ）の奏法やコードネームを学習しながら楽曲を練習します。 ・古典派の時代の音楽について、その変遷を学習します。
-------------	-------------	---	---

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習内容ごとのレポートや筆記テスト・実技テストの結果等をもとに総合的に評価します。	学習内容ごとのレポートや筆記テスト・実技テストの結果に加え、発表の場面等を総合的に評価します。	レポートの内容や授業中の態度（発言や練習姿勢等）等をもとに総合的に評価します。

4. 補足

- ①基本的な学習態度を身に付けましょう。
- ・授業開始に遅れないように、移動は速やかにする。
 - ・教材等の忘れ物をしない。 ・教材や楽器等を大切に扱う。
- ②楽譜の基本的な取り扱い方（読み方）を知り、的確に使えるように練習しましょう。
- *音楽系の進路を希望する者は、できるだけ早い時期から継続して専門的実技に取り組む必要があります。情報収集と準備が大切です。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
芸術	美術Ⅱ	第2学年	共通	2単位

教科書	高校生の美術2（日本文教出版）
補助教材	油絵の具セット，アクリル絵の具セット，スケッチブック

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 意図に応じて表現方法を創意工夫し，創造的に表している。	造形的なよさや美しさ，表現の意図と創造的な工夫，美術の働きなどについて考え，主題を生成し発想や構想を練ったり，美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	多様な表現方法や美術文化に関心を持ち，主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか），学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
一学期	4	オリエンテーション	・美術Ⅰを振り返り，美術Ⅱの学習のイメージを持ち，美術の学びの深まりと意味について学習します。
		【鑑賞】 身近なもので生み出す	・塩田千春の作品『掌の鍵』を鑑賞し，形やモチーフの特徴，印象などを捉え直し，新しい価値や意味を考えていきます。
	5 6	【デザイン】 ブックカバーデザイン	・伝えたい内容や，与えられた条件などを基に，形や色彩，文字などの効果を生かし，出水高校オリジナルのブックカバーをデザインします。
	7	【絵画】 石膏デッサン	・ギリシャ時代からローマ時代までのアカデミックな人体彫刻をデッサンすることにより，当時の美意識や対象の捉え方を制作の中で体験しながら学習します。
二学期	9 10	【絵画】 私の見つけた風景	・身近な風景を観察し，何気ない風景を深く見つめ，感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成することを学習し，油絵で表現します。
	11 12	【鑑賞】 アントニ・ガウディ	・土地の風土や，自然物の造形の美しさを生かしたアントニ・ガウディの建築やデザインを鑑賞し，作品や作者に対する理解を深める学習を行います。
三学期	1 2 3	【デザイン】 パッケージデザイン	・「合格祈願お菓子」をテーマに包むものの形やイメージ，用いる場面などに着目し，美しく機能的なパッケージをデザインします。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習内容に関わる筆記テストや、ワークシートの記述、完成作品などをもとに評価します。	完成作品に加えて、アイデアスケッチ、活動の様子、発言の内容、制作中の作品などをもとに評価します。	ワークシートや活動の振り返りシートにおける記述、授業中の発言、自己評価等をもとに評価します。

4. 補足

<p>美術の学習にあたってのアドバイス</p> <p>(1) 学習のマナーを身につけること。</p> <p>挨拶，準備（授業の始まる前におこなうこと），片付け（整理・整頓），鑑賞態度</p> <p>(2) 作品は必ず提出すること。</p> <p>(3) 自分の作品や自分の道具等を大切に扱うこと。</p> <p>・授業での制作活動や課題提出等が評価の基準となります。より良い表現を追求するために、時間いっぱい試行錯誤して活動に取り組みましょう。（進度に不安がある場合、放課後等を活用して制作しても構いません）</p> <p>・自分や他の人の作品や考えの良さを意識的に探し、言葉にして伝え合いましょう。</p> <p>・美術系進路の希望者は、できるだけ早い時期から継続しデッサンなどの実技試験対策に取り組む必要があります。大学や専攻によって、実技内容が異なるので、正確な情報収集と準備が大切です。早めに相談しに来てください。</p>

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
芸術	書道Ⅱ	第2学年	文系	2単位

教科書	書Ⅱ（光村図書）
補助教材	

1. 評価規準（何ができるようになるか－育成を目指す資質・能力－）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 書の実現の方法や形式、書表現の多様性について理解を深めている。 書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための技能を身に付け、表している。 	<p>書の実さや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の実を深く捉えたりしている。</p>	<p>主体的に書の実表現及び鑑賞の創造的な活動に取り組もうとしている。</p>

2. 学習内容（何を学ぶか）、学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
一学期～二学期	4月～12月	1 漢字の書 ①はじめに 個性豊かな漢字の姿 ②篆書 ③隸書 ④草書 ⑤行書 ⑥楷書 ⑦創作する	<ul style="list-style-type: none"> 古典を鑑賞し、書の実を味わうとともに、美がどのような要素で成り立っているかを深く分析します。 古典の臨書を通して、多彩な表現を学び、技能を身に付けます。 古典の学習を生かし、書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の実成について創造的に構想し個性豊かに工夫して、漢字の書の作品を創作します。
		2 仮名の書 ①古筆に学ぶ ②創作する 百人一首を書こう	<ul style="list-style-type: none"> 古筆を鑑賞し、書の実を味わうとともに、美がどのような要素で成り立っているかを深く分析します。 古筆の臨書を通して、多彩な表現を学び、技能を身に付けます。 古典の学習を生かし、書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の実成について創造的に構想し個性豊かに工夫して、仮名の書の作品を創作します。

三 学 期	1 月 ～ 3 月	<p>3 漢字仮名交じりの書</p> <p>①古典・名筆に学ぶ</p> <p>②創作する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・名筆の鑑賞，古典の書風を生かした制作により，表現の幅を広げ，創作に生かします。 ・漢字と仮名の調和した字形，文字の大きさ，紙面構成，目的や用途に即した個性的な表現を，感興や意図に基づいて構想し工夫して，漢字仮名交じりの書の創作をします。
		<p>4 篆刻・刻字</p> <p>①はじめに</p> <p>②創作する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・印の歴史や多彩な印の表現について学習し，理解を深めます。 ・刻字について，刻し方や彩色の技能を身に付けます。 ・刻し方や彩色による表現効果を考え，感興や意図に応じて創造的に構想し個性豊かに工夫して，刻字作品を制作します。

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実技活動の成果や，活動内での創意工夫について評価します。	実技活動の成果や，活動内での創意工夫，制作カード等への記述や発表等で評価します。	授業に対する姿勢，学習態度，自己評価，芸術文化への関心等で評価します。

4. 補足

<p>実技活動が中心となります。粘り強く取り組み，さまざまなアドバイスを基に創意工夫して取り組むことができるかという点が大切になってきます。また，評価はすべて授業内で行われるため，毎時の授業を大切に取り組んでください。</p> <p>毛筆だけでなく，硬筆（実用書）にも取り組みます。また，授業で制作した作品は，コンクールに出品したり，文化祭などで展示したりすることがあります。</p>
--

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
外国語	英語コミュニケーションⅡ	2	普通	文系4, 理系3

教科書	CREATIVE English CommunicationⅡ (Daiichi Gakushusha)
補助教材	後日提示

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音声, 句読法, 連語・慣用表現, 文構造及び文法事項などの英語の特徴やきまりに関する事項を用いて, 実際のコミュニケーション活動等において活用できる。	<p>【聞くこと・読むこと】 日常的や社会的な話題について, 必要な情報を聞いたり, 読んだりして, 概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図を目的に応じて捉え, 自分の考えをまとめることができる。</p> <p>【書くこと・発表・やり取り】 日常的や社会的な話題について, 聞いたり読んだりしたことを基に, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して文章を話したり, 書いたり, 伝え合うことができる。</p>	<p>【聞くこと・読むこと】 日常的や社会的な話題について, 必要な情報を聞いたり, 読んだりして, 概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図を目的に応じて捉え, 自分の考えをまとめようとしている。</p> <p>【書くこと・発表・やり取り】 日常的や社会的な話題について, 聞いたり読んだりしたことを基に, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して文章を話したり, 書いたり, 伝え合おうとしている。</p>

2. 学習内容（何を学ぶか）, 学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	Lesson 1: Voice for Action	予習, 小テスト, 言語活動
	5	Lesson 2: Aren't You Sleepy?	予習, 小テスト, 言語活動 パフォーマンステスト(プレゼン)
	6	Lesson 3: Becoming Attractive to Your Audience	予習, 小テスト, 言語活動
	7	Lesson 4: Are You Prepared?	予習, 小テスト, 言語活動
2	9	Lesson 5: The Era of Beautiful Harmony	予習, 小テスト, 言語活動 パフォーマンステスト(ディベート)
	10	Lesson 6: Actions to Reduce Loss and Waste	予習, 小テスト, 言語活動
	11	Lesson 7: Living with Adventure	予習, 小テスト, 言語活動
	12	Lesson 8: Power to the People!	予習, 小テスト, 言語活動
3	1	Lesson 9: Traveling This Beautiful Planet	予習, 小テスト, 言語活動 パフォーマンステスト(プレゼン)
	2	Optional Lesson: May I Have Your Autograph?	予習, 小テスト, 言語活動
	3	Optional Lesson: Information Please	予習, 小テスト, 言語活動

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ペーパーテスト(RLW) パフォーマンステスト(SP, SI)	ペーパーテスト(RLW) パフォーマンステスト(SP, SI)	ペーパーテスト(RLW) パフォーマンステスト(SP, SI) 言語活動, 課題への取り組み

4. 補足

R=リーディング, L=リスニング, W=ライティング,

SP=スピーキングプレゼンテーション (発表)

SI=スピーキングインタラクション (やりとり)

※ パフォーマンステストの具体的な評価基準は別途, 通知する。

※ 母国語と同じレベルまでコミュニケーションがとれるようになることを目指して, 毎日英語に触れる習慣をつけましょう。

教科名	科目名	履修学年	コース	単位数
外国語	論理表現Ⅱ	2	普通	文系2, 理系2

教科書	APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION Ⅱ (KAIRYUDO)
補助教材	後日提示

1. 評価規準（何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音声, 句読法, 連語・慣用表現, 文構造及び文法事項などの英語の特徴やきまりに関する事項を理解し, コミュニケーションを行う場面や状況に応じて, 適切に活用している。	【書くこと・発表・やり取り】 日常的や社会的な話題について基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して文章を話したり, 書いたり, 伝え合ったりしている。	【書くこと・発表・やり取り】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手や話し手に配慮しながら, 日常的や社会的な話題について, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して文章を話したり, 書いたり, 伝え合ったりしようとしている。

2. 学習内容（何を学ぶか）, 学習方法（どのように学ぶか）

学期	月	学習内容	学習方法
1	4	Lesson 1 これまでの生活[現在・過去時制]	予習, 小テスト, 言語活動
	5	Lesson 2 自分の夢[未来時制]	予習, 小テスト, 言語活動
		Lesson 3 SNSとの付き合い方[助動詞]	
	6	Lesson 4 未来の出来事の予測[完了形]	予習, 小テスト, 言語活動 パフォーマンステスト(スピーチ)
7	Lesson 5 健康管理[受動態]	予習, 小テスト, 言語活動	
2	9	Lesson 6 世界のエネルギー消費[比較①]	予習, 小テスト, 言語活動
		Lesson 7 国ごとの投票率[比較②]	
	10	Lesson 8 感銘を受けたこと[動名詞]	予習, 小テスト, 言語活動
		Lesson 9 スポーツ[to不定詞]	
11	Lesson 10 ニュース[分詞]	予習, 小テスト, 言語活動	
12	Lesson 11 自分にできること[関係詞①]	予習, 小テスト, 言語活動 パフォーマンステスト(プレゼン)	
3	1	Lesson 12 世界の国々[関係詞②]	予習, 小テスト, 言語活動 パフォーマンステスト
	2	Lesson 13 世界で起こっている問題[仮定法]	予習, 小テスト, 言語活動 パフォーマンステスト(ディベート)
		Lesson 14 さまざまな国の食文化[特殊構文]	
3	予習, 小テスト, 言語活動		

3. 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ペーパーテスト(RLW) パフォーマンステスト(SP, SI)	ペーパーテスト(RLW) パフォーマンステスト(SP, SI)	ペーパーテスト(RLW) パフォーマンステスト(SP, SI) 言語活動, 課題への取り組み

4. 補足

R=リーディング, L=リスニング, W=ライティング,

SP=スピーキングプレゼンテーション (発表)

SI=スピーキングインタラクション (やりとり)

※ パフォーマンステストの具体的な評価基準は別途, 通知する。

※ 母国語と同じレベルまでコミュニケーションがとれるようになることを目指して, 毎日英語に触れる習慣をつけましょう。